

内科 腎・高血圧・内分泌科

病棟 西病棟 14F

外来 外来診療棟A 2F 連絡先 022-717-7778(外来) 8796(外来 FAX)

ホームページ <http://www.int2.med.tohoku.ac.jp/>



科長
宮崎 真理子 特命教授

主な対象疾患

●一次性の腎炎 ●ネフローゼ症候群 ●糖尿病性腎症(の透析予防指導) ●全身性疾患に続発する腎臓病 ●薬剤性腎障害(急性、慢性)コンサルテーション ●保存期腎不全:透析前の腎機能低下における処方や栄養管理など ●末期腎不全:血液透析、腹膜透析、腎移植の選択支援と導入期医療 ●原発性アルドステロン症、クッシング症候群、褐色細胞腫などの内分泌性高血圧症 ●クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症、中枢性尿崩症などの下垂体疾患 ●妊娠高血圧症候群 ●腎血管性高血圧症 ●パセドウ病、橋本病 ●甲状腺眼症に対するステロイドパルス療法、放射線治療など

診療内容

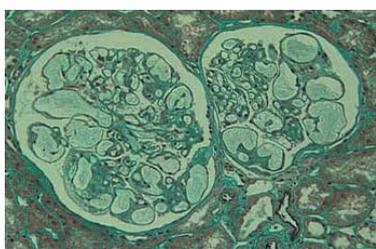
腎・高血圧・内分泌科は、1916(大正5年)、前年の東北帝国大学医科大学の開設に伴い、内科学第二講座として設置された教室に起源をもちます。この領域の診療を行う場合、臓器別専門領域の深い知識や先進的診療とともに臓器連関を視野に入れ、生活習慣も含めた全人的な診療が必要となります。内分泌疾患では年間入院症例数は、原発性アルドステロン症(PA)約100例(副腎静脈サンプリング入院)、褐色細胞腫約10例、クッシング症候群約20例、機能性下垂体腫瘍約15例(先端巨大症・クッシング病など)、原発性副甲状腺機能亢進症約20例、パセドウ病に対する放射性ヨウ素内用療法約20例、その他、下垂体前葉機能低下症・中枢性尿崩症・SIADHなどがあります。腎臓病に関しては腎生検(エコーガイド下)約80例/年、腎炎、ネフローゼ約30例、二次性腎臓病(ループス腎炎、ANCA関連腎炎、糖尿病性腎症、間質性腎炎などが約30例、その他に多発性のう胞腎のトルバプタン導入、糖尿病性腎症の外来における透析予防指導などがあります。腎血管性高血圧は10例/年、透析導入は40-50例/年と集計されています。二次性高血圧症、内分泌疾患は症例の集約と追跡の体制が整備され、丁寧で確実な診断に定評があります。薬剤性の腎や内分泌臓器への影響、急性腎障害、慢性腎臓病、高血圧症や内分泌疾患を持つハイリスク患者の手術や、妊娠管理のコンサルテーションなど、大学病院の広い裾野をカバーしています。

診療体制

腎臓、内分泌、高血圧、甲状腺、禁煙の専門外来を開設しております。科長(特命教授)宮崎真理子 専門領域:腎臓病学、血液浄化療法。副科長、医局長(准教授)森本玲 専門領域:内分泌、高血圧症。外来医長 尾崎 泰、病棟医長 長澤 将、をはじめ、4名の助教、1名の医員、4名の専攻医に加え、関連部門の教授3名、准教授3名、助教5名等が診療に加わっております。指導医を含む7名の総合内科専門医、8名の腎臓専門医、7名の内分泌専門医取得者が在籍し、他にも高血圧症、血液浄化療法、内分泌代謝疾患に関する専門医が多数在籍しております。

得意分野

○腎臓病:的確な病理診断。全身疾患や薬剤などに起因する腎臓病の病態診断と腎臓病対策。○多発性のう胞腎の難病指定、トルバプタン治療。○慢性腎不全、特に糖尿病性腎症:糖尿病透析予防指導チームが診療科、職種連携した進展防止。○末期腎不全:患者さん、ご家族の意思、身体や生活状況を多角的に検討し、協働での意思決定(Shared Decision Making)をして腎代替療法を選択し導入の支援。○原発性アルドステロン症:副腎静脈サンプリング検査によりアルドステロン分泌の詳細を明らかにする。○腎血管性高血圧症:血管拡張術、薬物療法のいずれの適応かを判断して方針決定。○甲状腺:パセドウ病難治例における放射性ヨード内用療法、甲状腺眼症の治療、薬剤性甲状腺機能異常の診断と治療。これらの診断と治療についてのセカンドオピニオンにも対応いたします(詳しくは<https://www.hosp.tohoku.ac.jp/consultation/005.html>をご参照ください)。



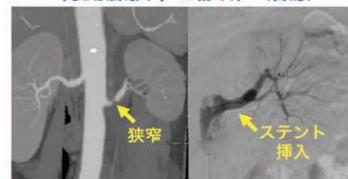
腎臓研究班が世界で初めて報告したリボタンパク糸球体症

原発性アルドステロン症
副腎手術で治る高血圧



アルドステロン症の発見のためにかかりつけ医との連携構築

腎動脈狭窄の診断・治療



降圧薬3剤でも血圧140/90mmHg → カテーテル治療によって正常血圧に改善
腎動脈狭窄は治療抵抗性高血圧の主な原因の一つ。適切な診断と治療が不可欠

ご紹介いただく際の留意事項

- 新患日:月曜日・水曜日・金曜日の午前11時まで。完全予約制ですが、急患はその限りではありませんので、直接外来へご相談頂ければ幸いです。
- <http://www.hosp.tohoku.ac.jp/organization/001.html>のご案内に沿い、地域医療連携センター経由で診療予約を承ります。
- 当科領域の疾患は「一見大したことない?」それとも「打つ手がない?」とお感じになる場合もあるかと思われますがどうぞお気軽にご紹介ください。また、入院中の患者さんや、緊急を要する病状や複雑な問題点のある患者さんにおいては、上記連絡先にご一報ください。医療者間での相談などの対応をいたしたく存じます。